

■ステーションフォトギャラリー
「伊勢神話への旅」開催しました



平成24年4月7日から5月20日までステーションフォトギャラリー宮澤正明写真展「伊勢神話への旅」を宇治山田駅臨時待合室にて開催しました。

幅広いメディアで活躍している写真家宮澤正明氏が時間をかけて神宮を撮り続け、10,000点を超えるといわれる作品の中から会場には約50点が展示されました。44日間の開催期間中に約1万2千人の方が来場され、普段見ることのできる伊勢神宮とは違った様々な姿を観ていただきました。神秘的な作品から新たな魅力を感じていただけたことと思います。

また、5月26日から7月1日まで東京都調布市でも同様の写真展を開催しました。

■平成25年「さっぽろ雪まつり」
大雪像制作展が決定しました

平成25年2月5日から2月11日の間に開催される「さっぽろ雪まつり」において、平成25年に執り行われるご遷宮のPRと伊勢志摩地域への誘客を目的として、会場の中でも中心に位置し、注目度の高い4丁目会場に、伊勢をイメージした大雪像が制作されることになりました。ご期待ください。

【関連行事／開催情報】



お木曳時、外宮への奉曳の様子

来年のお白石持行事、全国からお迎えする
特別神領民奉献にご理解、ご協力ください。

特別神領民とは、全国の伊勢神宮崇敬者の皆様方も特別に神領民となつていただく制度で、昭和48年の御遷宮より「一日神領民」という名称で実施されております。時代ごとに受入体制に違いはありますが、本義は伊勢市民が大切に継承している神領民としての歴史と精神を理解し体現していただくことにあり、奉献当日は、地元同様に、おひとりずつお白石を正宮御敷地内に奉献していただきます。

平成25年夏、地元奉献団のお白石持と同期間（全20日間予定）に特別神領民の奉献も行われます。お木曳時同様、神宮の車を使用し、1日2台の奉曳・奉献を実施します。

全国から訪れる約7万人の特別神領民をもてなし、伊勢の民俗文化に触れていただくことは、市民ができる「伊勢の魅力の情報発信」であると考え、伊勢のまちの将来を見据えた大切な事業として取り組んでいきます。これを伊勢の「おもてなし」の心を次世代に伝えていく機会と考え、多くの市民のご理解とご協力をお願いいたします。

参加された方々に「伊勢に来てお白石持行事に参加して良かった、また来たい」と思っていたり、ご特別神領民の受け入れに関わる私たちの共通の思いです。

「お白石持行事」におけます特別神領民の奉献につきまして、「お白石持行事」の伝統や安全性を考慮して一般募集は致しませんのでご了承ください。



御遷宮対策委員会では市役所、観光協会、商工会議所が合同でお白石拾いを実施。

お白石拾い
レポート

清流・宮川のお白石を拾い、
洗い、清めて新宮に奉獻します。

宮川は、大台山系を源流とする、三重県内では最も長い一級河川。奉獻するお白石は宮川で地元の神領民がひとつひとつ拾い集めるのも伝統行事の一環です。

お白石持の歴史は、50年以上前に遡るとされていますが、明治期には伊勢市・度会町の宮川でお白石を採拾し、町々（神領）の団が奉獻することが連の行事として行われていた記録が残っています。一度のご遷宮で十萬個を超えるお白石が必要ですから、その準備もおろそかにはできません。一年前にしてすでに数が整った団もあれば、これからがお白石拾いの本番！というところも…。各団それぞれ苦勞をされ、お白石を準備していただいていることと思います。

御遷宮対策委員会としても昨年より事業の環として、多くの皆様にご協力をいただきながらお白石拾いを実施しております。

5月某日には、度会町田間地区に石拾いに出掛けました。この日は約80名が広い河原を三々五々、ほどよい大きさのお白石を探して歩き、拾っ

お白石、ただ今展示中（伊勢商工会議所ロビー）



た石は川の水で洗ってタワシで磨き、数を数えて…と、約2時間ほどで二千五百個ほどの石を持ち帰ることができました。その後も各組織、協力企業・団体などにお白石拾いの機会を作っていたいとおります。

集めていただいた石の一部は樽に入れて市役所や商工会議所の二階に展示。お白石を見て、行事について知っていただき、来年に向かって機運を高めていきたいと思います。



お白石
どんな石を拾えばいいのでしょうか？

宮川流域でみられる「石英系」といわれる白石（花崗岩系は不可）で、石の大きさは大きいもので約9.5cm（500g程度）小さいもので約4.5cm（85g程度）としています。水晶のように少し透明感のある石肌を持つのが特徴です。なお、河川での石の採取は許可が必要ですが、宮川以外の河川での石拾いは現在のところ許可をいただいております。詳しくは御遷宮対策事務局までお問い合わせください。

企業全員参加で奉獻団へ！
●株式会社 鈴工（大湊町）

昔のように住民全員が奉獻団に参加することが難しい現代。他町との協力や曳き手の受け入れなど、時代にあったやり方を試行錯誤しながら継承していくのも民俗行事の大事なところといえます。今回は住民だけでなく地域の企業も全員参加で奉獻団や地域行事に関わるという事例をご紹介します。

大湊町の株式会社 鈴工では、地元の祭り・行事には全社をあげて参加することを方針としており、例年の初穂曳や大湊町の防災訓練、そして来年のお白石持行事も奉獻団員として約50人の社員が全員で参加を予定。

「子育ても同様ですが、社員にも郷土愛を持って欲しい。また、しっかり地域に根を生やして、地域の子が都会へ出ていっても地元へ戻ってこれる企業でありたいという思いがあります」と牛場まり子社長。毎年地元出身の若い世代を雇用し、入社時には、祭りのことも必ず「社の方針」として話をしています。

大湊町は「ご遷宮行事において特別な役割を持つ地域。お木曳では、内宮の棟持柱となる大木を奉曳します。その木を載せるため、大湊の奉曳車は市内随一の大きさ。現在の車は、前々回の遷宮の時、牛場さんの祖父が中心となって造られたものだから、「そうやって聞か



お木曳時、棟持柱奉曳の様子

されているので、思い入れも大きいですね」と牛場さん。奉獻団には顧問という立場で関わっています。まちごとに様々な歴史があり、大切に伝えられてきているのも民俗行事の魅力です。

ご奉獻の伝統を守るために
地元奉獻団へのご協力、ご参加を！

※奉獻参加については各団によって考え方、条件等が異なりますので、お住まいの地域の奉獻団にお問い合わせください。

◆特別神領民に奉獻していただくお白石を準備しています。企業、団体・グループでご家族で、ぜひ、ご協力下さい。